

会報



公益財団法人 松前国際友好財団

2016.10.1



国内研修旅行（2016年6月23日、広島平和公園にて）

奨学者からのたより



ヴィクトリア・アパンバン博士
(ナイジェリア)

Dr. Victoria Omolara Enobong
AKPAMBANG (Nigeria)

- ①アクレ工科大学 理学部化学科 講師
- ②2014年度招聘
- ③広島大学 大学院生物圏科学研究科 総合科学部環境化学・環境分析化学 研究室 教授 佐久川弘

- ① 現在の職業・地位等
 - ② 本財団が日本へ招聘した年度
 - ③ 受入研究機関と指導教官（ただし、招聘した当時のデータ）
- 編集・翻訳責任：松前国際友好財団

2016年7月29日

松前国際友好財団の研究奨励金制度のおかげで環境化学における研究が進展し、また、教育者としての指導能力のスキルアップにつながりました。帰国直後には、自分が所属する学科の大学院生担当に任せられ、彼らの学術活動の面倒を見ることとなりました。

私の受入教授である広島大学の佐久川弘先生は、アクレ工科大学の博士課程の学生指導にも関わってくださることになり、とても素晴らしい支援を行ってくださっています。

私共は、日本の人々からたくさんの善意をいただき

ております。素晴らしい機会を与えてくださった松前国際友好財団へ、心から感謝申し上げます。

ドウモ アリガトウ ゴザイマシタ。



モハammad・サリーム・バジュワ博士 (パキスタン)
Dr. Muhammad Saleem BAJWA (Pakistan)

- ①元パキスタン国立地質調査所 副所長
- ②1987年度招聘
- ③京都大学 理学部 助教授 志岐常正

2016年 7月 5日

30年間の長きにわたり、私のことを覚えていただき感謝申し上げます。

私は1997年に家族4人と共にパキスタンからカナダへ移り、カナダ国籍を取得して地質学者として金鉱の探査に携わっておりましたが、現在は退職しています。

昨年は500ページからなる、幼少期から66歳までの私自身の伝記本をウルドゥー語で書き上げました。日本での日常経験、そして親切な日本の皆様についても書かれています。

これまで世界12カ国を訪問しましたが、その都度日本とその独特な文化について説いております。

なお、ウルドゥー語のわかる松前国際友好財団のイスラム系の奨学者で、私の伝記本に興味のある方がいらっしゃいましたら、連絡をください。本をお送りしたいと思います。



ダンカ・ブクヴィチキ博士 (セルビア)
Dr. Danka BUKVICKI (Serbia)

- ①ベオグラード大学 生物学部植物形態学系統学部門 研究員
- ②2015年度招聘
- ③徳島文理大学 薬学部薬化学研究室 教授 浅川義範

2016年 6月 26日

長い間連絡をせず、申し訳ございませんでした。皆様や新しい松前国際友好財団の奨学者の方々は、いかがですか。

私は現在、エラスムスの奨学金を得て、イタリアに6カ月の期間で滞在しています。今日うれしいことに、ポーランドで松前国際友好財団の友人であるロシアのタティアナ・バルスコヴァ（2015年度招聘）さんと会って、素晴らしい一日を過ごすことができました。

2週間前には受入教授の浅川先生がベオグラード（セルビア）を訪れ、セルビア科学芸術アカデミーで

講演をされました。その後、先生は私の研究室を訪問されるなど、とても有意義な数日間を過ごしました。下の写真をご覧ください。

6カ月間という素晴らしい日本での滞在に感謝申し上げます。日本をとても懐かしく思っております。

心から感謝いたしますとともに、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



デイルシヨド・シャカロバ博士 (ウズベキスタン)
Dr. Dilshod SHAKAROVA (Uzbekistan)

- ①ウズベキスタン科学アカデミー 総合無機化学研究所 上席研究員
- ②2011年度招聘
- ③早稲田大学 理工学術院先進理工学部応用化学科 教授 黒田一幸

2016年 5月 26日

日本滞在から4年後、ウズベキスタンで開催されたシンポジウムにて、思いがけず松前国際友好財団理事長の内田先生と再会できましたことは、とてもうれしい驚きでした。内田裕久先生におかれましては、お元気に無事日本へご帰国されたことと思います。

シンポジウム終了後、たくさんの人が“どうして私が内田先生をご存知なのか知りたい”と質問してきました。プレゼンテーションを通じて得た、内田先生の人柄や研究領域がとても興味深かったと申ししていました。

先生の講演中に私が撮った写真を添付いたします。

今後も連絡を取らせていただいて、また近い将来にお会いできますことを願っております。





ワー・ワー・アウン博士
(ミャンマー)

Dr. WAH WAH AUNG (Myanmar)

- ①ミャンマー保健省医学研究部門 高度分子研究センター 所長 (研究部門)
- ②2015年度招聘
- ③北海道大学 人獣共通感染症リサーチセンター バイオリソース部門 教授 鈴木定彦

2016年4月18日

日本語の“こんにちは”そしてミャンマー語で“Mingalabar”とご挨拶させていただきます。

そしてミャンマー暦では新年ですので、皆様にとって“素晴らしい新年”となりますことをお祈り申し上げます。

松前国際友好財団の2015年度奨学者として滞在したのは、ほぼ1年前のことになります。北海道大学での研究活動の良い思い出、忘れられない国内研修旅行、そして温かい歓迎とおもてなしをいただいた事務所訪問などは、今でも昨日のことのように心に浮かびます。

定期的にニュースレターやグリーティングカードなどお送りいただき、ありがとうございます。

私に日本への扉を開き、受入機関で遺伝子配列に関する研究の機会を与えてくださった、松前国際友好財団に本当に感謝しております。

現在、ミャンマーの我々の研究室に分子応用科学を立ち上げることができました。受入教授の鈴木定彦先生が2015年の8月にワークショップ出席のためにミャンマーに来られたので、今後の研究協力の継続について検討しています。

最近日本の南部で悲惨な地震があったと聞きました。被害にあわれた方にお見舞い申し上げますとともに、日本の皆様のご無事とご健康をお祈りいたします。

ミャンマーでも数日前に地震がありましたが、特に深刻なものではありませんでした。驚いたのは、ブルガリアからの松前国際友好財団奨学者ディミタル・ヴァルチェフ (2015年度招聘) さんから私の安否を気遣ったメールが届き、その心遣いに深く感激いたしました。

最後になりますが、松前国際友好財団の創業者、ご賛同者、運営に携わる皆様へ、心から感謝申し上げます。



アリスティデス・キンテロ・ルエダ博士
(パナマ)

Dr. Aristides QUINTERO RUEDA
(Panama)

- ①チリキ自治大学 化学科臨床化学教授
- ②2004年度招聘
- ③宮崎大学 医学部生理学第二講座 教授 丸山眞杉

2016年1月23日

2005年に私が日本で過ごした時間について、松前国際友好財団に感謝を申し上げたいと思います。素晴らしい研究者のもとでの研究交流という価値ある機会をいただき、さらには日本の文化と人々に接することができました。将来、再び日本を訪れたいと思っております。

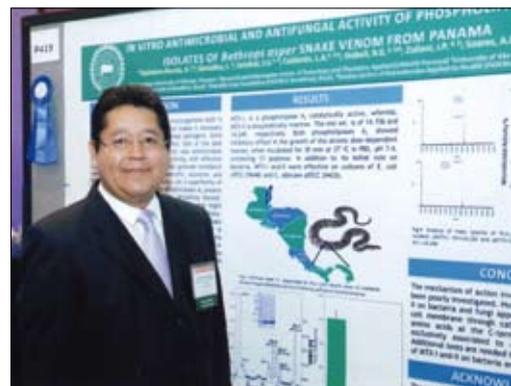
受入教授の宮崎大学医学部 丸山眞杉先生、そして生理学教室の皆様からいただいたたくさんの心遣いと支援には本当に感謝しています。

私はチリキ自治大学に設置された毒物・応用化学科学研究情報センターにて研究しております。このセンターと日本の研究者や松前国際友好財団と、毒物・応用化学の分野での強い協力関係が生まれるのを願っています。

2015年11月9日、米国毒物学カレッジ (ACT: American College of Toxicology) にて、私たち研究グループの活動が認められ、賞をいただきました。ACTは、科学の発展のみならず人間社会にとって重要な貢献を行い、かつ賞賛に値する外国人の毒学研究者 (米国非居住者) を対象として、世界中から選考されました。5件の受賞の中の1つが私たちの研究グループで、南米からは唯一の受賞となりました。受賞式は、ネバダ州のラスベガスで開催されたACT第36回年次会議で行われました。

松前国際友好財団の皆様が私に夢を追う機会を与え、そしてその夢が現実に向かっていきます。

皆様と世界中の奨学者全員の幸運をお祈り申し上げます。





奨学者国内研修旅行



本財団が招聘する研究者（奨学者）の方には、国内研修旅行に参加することで、日本滞在中に各自の研究活動を行うだけでなく、日本の歴史、文化、自然、産業などについても深く理解していただいております。

2016年6月に実施された国内研修旅行には、16カ国より奨学者17名の方々が参加されました。



◀京都・清水寺にて



京都・金閣寺にて▲



▲湯のみに絵付け体験をする奨学者（京都）



▲呉市海事歴史科学館（大和ミュージアム）および海上自衛隊呉史料館（てつのかじら館）を見学

国内研修旅行に参加して



アダマ・テリー・
ジェブキリ博士 (マリ)
Dr. Adama Telly DIEPKILE
(Mali)

①バマコ科学技術大学 科学技術学
部 助教授、研究員
②三重大学 大学院生物資源学研究
科 共生環境学専攻地球システム
学講座緑環境計画学
教授 松村直人

国内研修旅行は大成功で、私の日本への理解は
とても深まりました。

特に日本古来の文化、ヒューマニズム、世界平
和を維持するために日本が行っているたくさんの
事業や活動などです。また同じくこの旅行に参加
した奨学者たちとは良い交流の機会となり、友人
になることができました。

京都や奈良ではお寺や神社を訪れ、お抹茶と和
菓子、清水焼絵付け体験もでき、そして広島で平
和記念資料館や平和公園を訪れたことは、その全
てが私自身の成長につながりました。松前国際友
好財団に感謝いたします。



フローラ・ハジイエバ博士
(アゼルバイジャン)
Dr. Flora HAJIYEVA
(Azerbaijan)

①バクー州立大学 物理学部ナノ素
材化学物理学科 助教授
②熊本大学 工学部物質生命化学科
准教授 高藤 誠

国内研修旅行に参加して、研究とは別の視点か
ら日本について理解することができました。

松前国際友好財団の招聘によって、日本は素晴
らしい自然と古い文化を持つ国であることを知り
ました。

私は特に広島の平和記念資料館が印象に残り、
当時の被爆により生き残った日本の方々の気持ち
に触れることができました。



ピュー・ピュー・ミン博士
(ミャンマー)
Dr. PHYU PHYU MYINT
(Myanmar)

①シットウェイ大学 化学科 准教
授
②名古屋大学 大学院生命農学研究
科 応用分子生命科学専攻生理活
性物質化学 教授 小鹿 一

国内研修旅行に参加して、記憶に残る経験をさ
せていただきました。

文化と歴史の観点から日本を理解する良い機会
となり、特に神道について新しい知識を得て、実
際に神社で経験することができたことは素晴らし
かったです。また世界初の原爆投下による生存者
の男性が、自身の家族のことについて語ってく
さり、そのご家族や惨禍に巻き込まれた人々の悲
哀と恐怖を想像し、圧倒されてしまいました。



アラン・メリ・ラナン博士
(カメルーン)
Dr. Alain MELI LANNANG
(Cameroon)

①マルア大学 高等教員養成学部化
学科 上席講師
②山形大学 農学部食料生命環境学
科 食品・応用生命科学コース発
酵制御学分野 教授 塩野義人

京都から広島への国内研修旅行は、とても素晴
らしい体験でした。今では、日本について何か話
することができるようになったのではないかと思います。

京都や奈良では、神社、お寺や天皇にまつわる
数々の日本の歴史について教えてくださった、京
都のガイドさんにお礼申し上げます。とても感銘
を受けたので、もう一度訪れたいと思っております。
ありがとうございました。

東京ミーティング

2016年7月26日：東海大学校友会館にて▼



◀奨学者を歓迎する
内田裕久理事長



特別講演をされる▶
家森幸男先生

奨学者（本財団の研究奨励金制度で招聘した外国人研究者）の方々に、本財団の設立目的と事業活動についてより深く理解していただくため、東京ミーティングを毎年実施しております。

今回は、7月下旬に約2日間の日程で、18カ国から19名の奨学者を東京へお招きしました。初日は本財団事務所にて、創設者である松前重義先生について学んでいただき、その後、都内観光をいたしました。2日目は東海大学校友会館にて、内田裕久理事長による講演「日本のエネルギー政策と水素エネルギー」、19名の奨学者による各自のプレゼンテーション、特別講演会として家森幸男先生（武庫川女子大学国際健康開発研究所所長、京大名誉教授）をお招きし、健康長寿と日本食に関する講演を聴講いたしました。続いて開催された奨学者懇親会には、18カ国の在日外国大使館から大使閣下や書記官の方々、奨学者の受け入れ指導教官、その他多くの方々にご来場いただき、奨学者への激励を賜ると同時に本財団の活動についてご理解をいただきました。



修了奨学者が本財団を訪問

◀1990年度奨学者 オーストラリア国
イアン・ダットン博士（5月13日）



▲1999年度奨学者 ブラジル国 デニゼ・パラナグア・ヴェネゾ博士（2月29日）



◀2015年度奨学者 タイ国 タンヤラー・ジッピーラ博士（8月8日）

ご寄付金を以下の皆様よりいただきました。
感謝申し上げます。

(期間：2016年3月1日～8月31日、敬称略、順不同)

松前 光紀、梶田 順子、遠山 文雄、山本 孝行、松前 澄子、竹口 真、江口 春夫、
岡本 定勝、吉田 守、鈴木 章司、多田 直人、堀口 雅巳、外館 悟、阿部 潔、
東海教育産業株式会社

本財団へのご寄付について

寄付金の金額に制限はありません。ゆうちょ銀行にてお振り込みください。

口座番号：00100-4-49831

加入者名：公益財団法人 松前国際友好財団

本財団が用意いたしました「払込取扱票」をご利用いただいた場合、振込手数料は本財団が負担いたします。本財団事務局まで電話または、メールなどにてご請求ください。

ご寄付に対する税制上の優遇措置のご案内

公益財団法人松前国際友好財団に対して寄付金（法人会員の場合は会費）のご協力をいただくと、次の税制上の優遇措置が受けられます。

※詳しくは、最寄りの税務署にお尋ねください。

個人

所得税

個人が公益財団法人松前国際友好財団に支出した金額は、特定寄付金に該当し寄付金控除が受けられます。従って、他の公益財団法人への寄付金を含めた特定寄付金から2,000円を差し引いた金額が寄付金控除として、年間所得から控除できます。（ただし年間所得の40%が限度額です）

寄付金控除を受けるためには、所轄税務署で本財団が発行した領収書等を添付して確定申告を行う必要があります。

(例) 寄付金額が5,000円の場合は、2,000円を控除して3,000円が寄付金控除額となります。

個人住民税

公益財団法人に支出した寄付金については個人住民税の税額控除が受けられますが、寄付金の範囲が異なるため、お住まいの都道府県、市町村の税務課等でご確認ください。

税額控除額 = (控除対象寄付金の合計額 - 2,000円) × 10%
{ (都道府県 (4%) ・ 市町村 (6%)) }

* 総所得金額の30% が寄付金の限度額です。

相続税

相続により取得した財産の一部または全部を公益財団法人に寄付した場合、寄付した財産には相続税が課税されません。

法人

法人会員へのご加入につきましては、本財団までご連絡ください。

(年1口 10万円)

寄付金の損金算入限度額

公益財団法人に対する損金算入限度額は、通常の寄付金の損金算入限度額と同額以上が別枠として損金算入することが認められています。

研究奨励金制度について

招聘期間：3カ月～6カ月

応募締め切り：招聘する年度の前年8月31日

◎応募者の資格

外国国籍を有しかつ次の事項に該当する者は、必要書類を添えて応募することができる。

1. 博士課程を修了した者、またはそれに準ずると本財団がみなした者。
2. 応募時の年齢が49歳以下であること。
3. 英語または日本語の会話能力が、研究活動に支障を来さない者。
4. 来日経験のない者。
5. 応募者は、応募者自身の国において確固たる地位・職業を持ち、招聘後は本国に戻る者。
6. 心身ともに健康な者。

◎研究分野

自然科学・工学・医学の研究分野は優先度が高い。

◎招聘期間および招聘予定数

各年度4月より3月迄の間で、滞在を希望する長さは応募者が、3カ月以上6カ月以内の間で決めて応募できる。各年度の招聘者数は約20名。

◎日本における研究機関

受け入れ研究機関については、国内のあらゆる大学の研究室、国公立研究機関、さらには各企業の研究所など、受諾可能な研究機関を自由に選択することができる。

◎研究奨励金の内容

研究滞在費……研究機関への指導料および研究に係わる経費・宿泊費・食費・交通費等の諸経費として支給。

旅行者保険……傷害死亡、後遺症、傷害治療、疾病死亡、疾病治療。

旅費……招聘者の母国居住地から東京間の最短経路のエコノミークラス・往復航空券を支給。

来日一時金……来日時の国内旅費補助、滞在開始時の宿泊施設確保に要する経費の補助等として支給。

※詳しくは「募集要項」をご覧ください。

お問い合わせは：

公益財団法人 松前国際友好財団

〒167-0043 東京都杉並区上荻4-14-46

TEL：03-3301-7600 FAX：03-3301-7601

URL：http://www.mif-japan.org/

E-mail：contact@mif-japan.org

本財団の活動にご理解とご協力をお願いいたします

1979年（昭和54年）松前重義博士の呼び掛けにより設立された松前国際友好財団は、人種、性別、宗教、思想を問わず、優れた学術的資質を備えた外国人研究者に対し日本での研究活動の機会を提供し、日本の学術発展に寄与するとともに国際友好親善に貢献することを、その目的としております。設立以来、本財団は多くの方の善意によるご寄付により支えられ、国からの公的資金や特定の機関・企業・団体など外部からの補助金、交付金、また事業活動による収入等を一切得ることなく今日まで活動を続けております。

今後も、これと同様皆様のご支援とご理解をいただきながら、活動を続けてまいります。本財団へのご理解とご協力のほどお願い申し上げます。